

目的・背景

現在、日本では、少子高齢化、人口減少が進んでおり、あらゆる分野で人手不足が進んでいます。特に、船上でのハードな仕事を要求される内航海運の船員もその例外ではありません。また、海難事故の原因の約7割から8割がヒューマンエラーといわれており、事故減少が求められています。全産業的な人手不足が進行する中、船員不足を解消し、船員の負担を軽減するために、自動運航船の開発が求められています。

事業概要

日本財団では無人運航船プロジェクトMEGURI2040では、2020年から2022年まで実施したステージ1で自動運航船の技術実証を行い、2023年から現在にかけて実施中のステージ2では社会実装を試みています。「おりんぴあどりーむせと」はプロジェクトで用いている実証船の1隻です。本船では既存の船舶に自動運航のシステムを後から搭載するレトロフィットの手法で開発を進め、国内有数の輻輳海域である瀬戸内海での自動操船や、幅が狭く操船難易度が非常に高い土庄港での自動離着岸を成功させています。

今後の展望

本プロジェクトは今後、開発した技術のますますの社会実装を進め、内航海運における船員不足の解消、物流の健全性の維持に貢献することを目指します。この「おりんぴあどりーむせと」では、搭載したシステムを用いた自動運航を続け、様々なデータの取得を進めます。

2026年現在、自動運航船に関する国際的な枠組みの協議がまさに進行しており、2032年には自動運航船の国際的な安全基準（MASSコード）の義務化が予定されています。本船で取得したデータを、このような国際的な議論の場にも活用して、自動運航船の実用化に向けた枠組み策定に貢献していきます。

実施主体	国際両備フェリー(株)・日本財団
実施場所	新岡山～土庄（香川県）航路
活用技術	ICT
支援事業	日本財団無人運航船プロジェクト MEGURI2040

